

ここで見られる植物：サルトリイバラ（China Root; Smilax china）

サルトリイバラは落葉性（季節的に落葉）の低木で、つるでよじ登って育ちます。その名（サルトリイバラ、もしくは“monkey-catching thorn”）は、茎から出る棘や巻きひげに時々不運な猿が引っかかってしまうことからきています。サルトリイバラはまた、心地いい香りを放ち食べられる葉でも有名で、日本の他の地域ではカシワの葉を使うように、この地域では柔らかいお餅をサルトリイバラの葉でくるんで食べます。鳴門におけるこのお餅の愛称は「ばらもち」（“rose mochi”）です。

サルトリイバラは雌雄異株で、ねじれながら 50cm から 3m までの高さに伸びます。葉の形状は円形から細長い楕円形まであり、なめらかな全縁で柄は短くなっています。4 月から 5 月にかけては、淡黄緑色の花を咲かせ新しい葉が出ます。サルトリイバラには丸い果実もつき、10 月～11 月に成熟すると鮮やかな赤色になります。